

京丹後市指定文化財として 新たに5件の文化財を指定しました

～京丹後市指定文化財は111件に～

令和5年2月8日

京丹後市役所

京丹後市教育委員会は、令和5年2月1日に次の5件の文化財を京丹後市指定文化財に指定しました。

これにより、京丹後市指定文化財の件数は111件となりました。

	名称	員数	所有者（管理者）	種別
1	石造地藏菩薩立像	一軀	宗教法人常德寺	彫刻
2	銅造鰐口	一口	平区（京都府立丹後郷土資料館寄託）	工芸品
3	坪倉家文書	六点	個人（京丹後市立丹後古代の里資料館寄託）	古文書
4	森田治郎兵衛墓		森田翁顕彰会	史跡
5	味土野大滝	一瀑	味土野区	名勝

※各指定文化財の概要は次ページ以降を参照ください。

<問い合わせ>

京丹後市教育委員会事務局文化財保護課

電話：0772-69-0640

FAX：0772-68-9061

京丹後市指定文化財の概要

(1) 常德寺 石造地藏菩薩立像

名 称	石造地藏菩薩立像
員 数	一軀
所有者の氏名	宗教法人常德寺
所有者の住所	京丹後市丹後町平 782
所 在 地	京丹後市丹後町平 782
文化財種別	彫刻
年 代	永享9年(1437年)
材 質	石造、凝灰岩製
法 量	高さ160 cm、幅64 cm、奥行44 cm
説 明	石造地藏菩薩立像は、頭を丸め袈裟・沓を着用した僧形の姿で、像高に比して幅や奥行が大きく、落ち着いた印象を受ける。左手には蓮弁を表現した台座に乗る宝珠を持つ。右手は、その形状から、かつて錫杖を持っていたものと推定される。右肩に比べ左肩がわずかに下がり、右足をわずかに前へ踏み出した姿で造られる。像が乗る台座は、材質や形状から見て、同時に作成されたものと推定される。 袈裟の右袖には「永享九年丁巳卯月五日」、左袖には「願主清源常奉敬白」の銘があり、室町時代中期の造立とわかる。三嶋田神社(京丹後市久美浜町金谷)の石造釈迦如来立像と並ぶ大型の在銘石造物として貴重なものである。

(2) 八幡神社 銅造鰐口(どうぞうわにぐち)

名 称	銅造鰐口
員 数	一口
所有者の氏名	平区
所有者の住所	京丹後市丹後町平
所 在 地	京都府立丹後郷土資料館寄託
文化財種別	工芸品
年 代	応永11年(1404年)
材 質	鑄銅製
法 量	面径27.5 cm、肩厚7 cm
説 明	丹後町平に所在する八幡神社の鑄銅製の鰐口である。外区表面の一番外側には、「敬白八幡宮丹後国宇何庄願主教阿弥陀佛」、「応永十一年甲申十一月十五日願主性阿弥陀佛」の銘が後刻で刻まれる。願主の「教阿弥陀佛」「性

阿弥陀佛」から時宗との関係が考えられる。

市指定文化財の鰐口には、永享3年（1431年）銘をもつ加茂神社所蔵鰐口と、宝徳2年（1450年）銘をもつ木橋区所蔵鰐口等がある。本鰐口は、これらより古く、銘文の内容から時宗との関係がわかる資料として貴重なものと評価できる。

（3）坪倉家文書

名 称	坪倉家文書
員 数	六点
所有者の氏名	個人
所有者の住所	大阪府
所 在 地	京丹後市立丹後古代の里資料館寄託
文化財種別	古文書
年 代	室町時代後期
材 質	紙本墨書、卷子装
法 量	A 巻①一色義辰内書 横 43 cm、縦 25.8 cm B 巻②今井知光讓状 横 34.4 cm、縦 23.3 cm C 巻③伊賀直達書状 横 17.9 cm、縦 12 cm ④伊賀直達書状 横 30.9 cm、縦 12.1 cm ⑤伊賀直達書状 横 33.2 cm、縦 12.1 cm ⑥延永有弘書状 横 28.8 cm、縦 12.1 cm
説 明	弥栄町芋野の坪倉家に伝わる中世文書である。坪倉家は、天文7年（1538年）の『丹後国御檀家帳』（以下、『御檀家帳』とする）の「吉沢の里」（弥栄町吉沢）に「つほくら五郎右衛門殿」とある在地土豪である。坪倉家には、中世文書が6点伝わっており、現在、3巻の卷子装に装丁されている。このうちC巻に装丁された4つの文書は、現状を見る限り、文書の端を切り詰めた可能性がある。

丹後国内に残る数少ない中世文書群であり、戦国時代の合戦の際の通路調略の指示や丹後守護一色氏が発出した文書と思われるものが含まれていることから、永正年間から天正年間にかけての丹後国の歴史を考える上で大変重要な史料と評価できる。

(4) 常立寺 森田治郎兵衛墓	
名 称	森田治郎兵衛墓
所有者の氏名	森田翁顕彰会
所有者の住所	京丹後市峰山町杉谷 836-1 京丹後市商工会内
所 在 地	京丹後市峰山町吉原 68
文化財種別	史跡
年 代	延享元年（西暦 1744 年）
材 質	石造、凝灰岩製
法 量	総高 173 cm
	空風輪幅 17 cm、奥行 17 cm、高さ 21.5 cm
	笠部 幅 61 cm、奥行 61 cm、高さ 23.5 cm
	墓標部幅 31 cm、奥行 21.5 cm、高さ 73 cm
	蓮華座幅 43 cm、奥行 52.5 cm、高さ 19 cm
	基礎一段目幅 48.5 cm、奥行 49 cm、高さ 18 cm
	基礎二段目幅 83.5 cm、奥行 78 cm、高さ 18 cm
説 明	丹後縮緬の始祖絹屋佐平治（森田治郎兵衛）の墓である。常立寺本堂向かって右手側、寺院墓地入口に所在する。墓石は、笠付方形に分類されるものである。墓標部正面には位牌形を表現し、その下部に蓮華座を陰刻する。位牌形内には、梵字キリークに続き「穰譽淨専」の戒名を刻む。右側面には「延享元甲子年」（1744 年）、左側面には「十一月三日」とある。背面側にも文字が刻まれているようであるが、磨滅のため判読できない。 森田治郎兵衛墓は、織り始めの縮緬（禅定寺所蔵、市指定文化財絹屋佐平治関係資料）とともに丹後縮緬の技術を丹後へ伝えた始祖森田治郎兵衛の業績を振り返る上で貴重な資料と評価できる。

(5) 味土野大滝	
名 称	味土野大滝
員 数	一曝
管理者の氏名	味土野区
管理者の住所	京丹後市弥栄町須川
所 在 地	京丹後市弥栄町須川
文化財種別	名勝
規 模	全長 51m
	落差 40m
	滝種 直流
	標高 304m

位
説

置 東経 135 度 9 分 25 秒 北緯 35 度 39 分 03 秒

明 丹後半島を南北に流れる宇川は、金剛童子山を源流とし、世屋高原の小起伏を南北方向に深く下刻し流れる。味土野大滝は、宇川支流の標高 304m 地点にかかる滝で、細川ガラシャ夫人隠棲地（市指定史跡）のある味土野集落の 500m 東に位置する。滝は、北但層群下部の玄武岩上を流れる。昭和 11 年 9 月 23 日作成の「細川忠興夫人隠棲の地記念碑除幕式記念」絵葉書（与謝郡野間村婦人会作成）には「野間村味土野の滝」とありして写真絵葉書が作成されており、早くから地元の名所として知られていたことがわかる。

全長、落差ともに市内最大規模の滝である。上流域の面積が丹後半島最大とされる布引滝より広いため、水量が多く迫力があり、夏季でも流れが枯れることがない。なお令和 2～3 年に放送された大河ドラマ「麒麟が来る」にあわせ、地元では「味土野ガラシャ大滝」という名称で展望台整備等を行っている。

指定文化財写真



(1) 常德寺石造地藏菩薩立像



(2) 八幡神社 銅造鰐口



(3) 坪倉家文書 ①一色義辰内書



③伊賀直達書状



(4) 森田治郎兵衛墓



(5) 味土野大滝

市内の指定等文化財の件数(令和5年2月1日現在)

区分			国				府					市	合計
			指定	選定	登録	選択	指定	登録	選定	暫定登録	決定	指定	
有形文化財	建造物		3		13		5	5		52		12	90
	美術工芸品	絵画	0				3	7		10		15	35
		彫刻	2				2	0		0		15	19
		工芸品	1				4	0		0		15	20
		書跡・典籍	0				0	0		0		3	3
		古文書	0				1	1		3		2	7
		考古資料	2				6	1		5		9	23
		歴史資料	0				1	0		0		1	2
無形文化財			0	0		0	0				0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財		0		0		0	0		3		1	4
	無形の民俗文化財		0		0	1	3	11				3	18
記念物	遺跡(史跡)		5				7	0		0		17	29
	名勝地(名勝)		1※1				2※2	0		0		4※3	7
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)		2※1		0		2※2	1		0		12※3	17
文化的景観				0					2				2
伝統的建造物群				0									0
文化財環境保全地区											3	2	5
合計			16	0	13	1	36	26	2	73	3	111	281

※1 うち1件は重複指定。(琴引浜は、名勝及び天然記念物)

※2 うち1件は重複指定。(立岩は、名勝及び天然記念物)

※3 うち1件は重複指定。(五色浜周辺は、名勝及び天然記念物)